



駒本の力

駒本小学校(家)
教育活動紹介便り
校長 田中 克昌
NO. 17
平成28年1月8日

「どの子も伸ばす、駒本の教育」 6

校長 田中 克昌

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞ「駒本の力」をよろしくお願いたします。12月の保護者アンケートのご意見の中に、この「駒本の力」を読んでもらっているという感想をいただき、とてもうれしく思いました。作成する意欲がとても高まりました。ありがとうございました。さて、「どの子も伸ばす、駒本の教育」も6回目になりました。今回は、授業のユニバーサルデザイン化の視点である、「共有化の取組」について解説します。

【共有化の取組】

共有化の取組は、個々人で学習した成果をもちより、ペアやグループ、または、全体で共有し「学び合う」ということです。共有化がユニバーサルデザイン化の視点になっているのは、個々人の学習を相互に共有、比較、検討することで、他者の考えを知り、学習の幅を広げていくことがどの子にも大切だからです。学習や発達に課題がある子どもたちの場合、どうしても考えの幅が狭くなったり、思うように学習に取り組むことができない場合があります。それをカバーし学習の幅を広げ、学習を深める一つの方法として、ペアや

グループ等での学び合いという学習活動が大切です。次の2点がそれです。

① ペアやグループ学習

本校の授業では、日常的にこの学び合いの活動を取り入れています。子どもたちもごく自然にこの学び合いの活動を行っており、日常化されている状態を見ることができています。本校では学び合いの中で、共有、比較、検討という3つの段階を定め、学習内容に応じて行っています。

個々の自力解決において学んだ成果を他者と共有し、相互の考えを学びの視点に応じて、比較したり、新たな考えやグループの意見をまとめるために検討します。

② 全体共有

ペアやグループで学び合った成果を全体で確認することも学び合いとしています。この時大切なのが、学習を深めるための学びの筋道を意図的に構成するという事です。板書の工夫による意識化も欠かせません。

共有化例



グループ学習で考えの交流や共同学習



ふせんを使って友達にアドバイス



発表の練習を見合う。

共有化例



ホワイトボードを使って考えを比較

よかった点を全員が共有



私が教師になったとき

作者不詳

私が先生になったとき
自分が真理から目をそむけて
子どもたちに本当のことが語れるか
私が先生になったとき
自分が未来から目をそむけて
子どもたちに明日のことが語れるか
私が先生になったとき
自分が理想をもたないで
子どもたちにどうして夢が語れるか
私が先生になったとき
自分が誇りをもたないで
子どもたちに胸をはれといえるのか
私が先生になったとき
自分がスクラムの外にいて
子どもたちに仲良くしろといえるのか
私が先生になったとき
自分が闘いから目をそむけて
どうして
子どもたちに勇気をもてといえるのか

この詩に触れたとき、といってももう随分と昔になります。たしか20代の頃だったと思います。その時には、目から鱗が落ち、目がさめた気がしました。ちょうど子どもたちの指導に悩んでいた時機でしたので。

教師として子どもたちの前に立つ以上は、まずは自分が範を示せと教えてくれています。教師として生きる指針を見事に教えていただいた詩です。

特に、自分が闘いから目をそむけての一文は強烈です。子どもたちを守るため、困難に相對することから逃げてはいけない、というのです。それができていない自分を恥じながら日々暮らしているのが実状ですが、自らを戒めたいと思います。

この詩は、田中が触れた方にいつもお示ししてきたものです。『先生』を『親』と読み替えてみてください。

教師というのはなかなか大変な仕事で、その昔は聖職とまで言われた仕事

です。若い人は新田次郎さんの「聖職の碑」という小説を読んだことがありますか。今は聖職とは恥ずかしくて自分から言えませんが、人が人に人の道を説くのですから、基本は同じなのでしょうね。そして、子どもたちに強い影響を及ぼすことができます。多くの教師は子どもの頃に素敵な教師との出会いがあり、その先生のように子どもたちの前で輝ける存在になりたいと思い、教師を志したのではないのでしょうか。ドラマに出てくる先生にも憧れました。その仕事に就いている私たちは、常にこの詩のように自分の居ずまいを正していきたいものです。教師というのはすばらしいもので、ほとんどの人がなりたくてなった仕事です。

しかし、この教育という世界は、困難なことばかりです。私はよく、これから教師を志す人に、「どうしてこんなに困難が多い職に就こうと考えたの？」と質問をします。それでも教職に強い希望と憧れを抱いている先生方に、深く敬意の念を覚えずにいられません。

最も大切なことは得てして至極単純です。子どもたちを育てるためには、愛と熱のの上に立った力であり、自ら範を示さなければならない。なんと30年以上教員をしてきてたどり着いたのがこのことでした。